

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 7 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870201120		
法人名	社会福祉法人今治市社会福祉協議会		
事業所名	今治市社協グループホーム ゆいの家		
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435番地1 (電話) 0897-74-1320		
管理者	渡邊 ミカ子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 26 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 4 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 4 人, 非常勤 17 人, 常勤換算 15.5 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 4 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	9 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 85.8 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島しょ部の小さな港の近くに、広々とした庭を持つ平屋の建物が二棟並んでいる、社会福祉協議会が運営するホームである。同法人の民家を移築したもう一つのグループホームや保健センター、デイサービスセンターなどが隣接している、地域の福祉拠点を担っている場所にある。地域のニーズから開設したホームであり、地域と共に運営しているような状況がうかがえる。管理者の「地域がホームに入ってきている」という言葉の通り、ホームと地域は古くからの近所づきあいを感じられる。長期間勤務している職員が多いため、利用者との間に「第二の家族」というような関係が自然と構築できている。「日常生活を楽しむ」を支援している楽しそうな声が行き交うホームである。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

運営推進会議については、「最初は議題に困って」と笑いながら話す管理者であったが、現在は地域にホームを知ってもらおう場として有用に活用している。肩の力を抜いて、楽しみながら継続することを視野に入れ、議題や参加者に変化を持たせるよう取り組んでいる。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は職員各自で読み込み、会議で話し合っている。評価の取り組みに数回携わっている職員が多く、自らの業務の振り返りを行う時間として活用しており、有用な取り組みになっている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議には行政関係者や地域住民だけでなく、利用者や家族等の参加がある。ホームの課題も議題の一つとして取り上げ、利用者へのサービスの向上を関係者全てが図るような取り組みがなされており、地域に開かれたホームとして運営していこうとしている意志が感じられる。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

管理者は、家族とより信頼関係を結ぶために、定期的な報告は勿論のこと、家族の都合に合わせて家族単位で話し合いを持つ機会を作っている。家族等と直接話し合いを持つことで、一方通行の報告にならないように心がけている。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

開所後から近隣とのつきあいには力を入れている。最近では近所の方が話し相手を求めてホームに遊びに来るなどのつきあいがあり、地域と相互扶助の関係が構築できている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) ゆいの家1

記入者(管理者)  
氏名 渡邊 ミカ子

評価完了日 平成 20 年 9 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 現状に合わせ、必要に応じて職員全員で見直し、常に地域とのつながりの継続が保たれ、安心した暮らしが続けられることを基本に、理念を作成している。  (外部評価) 運営法人が、地域で活動している中で認知症の拠点の必要性を痛感して開設したホームだけに、理念は職員だけでなく地域住民と共につくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 全員で作上げたものでミーティング時の再確認、理念の共有、実践につなげている。  (外部評価) 管理者は介護の質の向上にはボトムアップが不可欠と考え、職員との話し合いは、会議上だけでなく業務のちょっとした間でも持つように心がけており、理念の共有に力を入れている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の作成時、家族様に送り、理解を得ている。地域に向け講演会の開催時、理念の紹介をさせてもらった。 玄関、フロア掲示し、来客者、見学者にもわかりやすくしている。又、運営推進会議で紹介し、理解をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩での気軽な声かけがあったり、地域から野菜や果物の頂き物が毎日のようにあり、利用者さんも会話を楽しんでいる。行事へのお誘いを受けたり、ホームの行事に参加のお誘いをしたりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事には全員で参加できるようにしている。行事へのご案内をしたり、招待があったりの交流は年間を通して数多くある。餅つき大会は老人クラブの協力で行われ、保育園、中学生、高校生との交流が、定期的に行われている。今年も学校関係のスポーツ大会に、千羽鶴を贈って喜ばれた <hr/> (外部評価) 開所後から近隣とのつきあいには力を入れている。当初はホームが地域に出ていく関わりが基本であったが、近年ではホームの行事に参加してもらったり、できた野菜を届けてくれるなど、地域がホームに入ってくるようになっている。近所の方が話し相手を求めてホームに遊びに来るなど、地域との良好な関係が構築できている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 昨年度は地域に向け認知症の理解と題しての講演会を2回開催し、皆様がとても関心を持たれ、大変喜ばれていた。又、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全員で取り組み、外部評価の意義は理解できている。評価結果はミーティング時で取り上げ、話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 自己評価は職員各自で読み込み、会議で話し合っている。評価の取り組みに数回携わっている職員が多く、毎年評価項目を読むたびに新しい発見があるとのコメントには、真摯に取り組んでいる状況がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現状の課題や評価結果を取り上げ取り組み状況を連絡し、意見を求め貴重な意見を参考にして、サービスの向上に活かしている。  (外部評価) 「最初は議題に困って」と笑いながら話す管理者には、現在は地域にホームを知ってもらおう場として有用に活用しているという自信がうかがえる。家族の了解を得ながら、個々の利用者に関わる議題にも触れており、サービスの向上に繋がるような取り組みがなされている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営上の実態の報告、入退居、入退院状況等の報告をし現状の課題等の相談をしながらサービスの向上に取り組んでいる。  (外部評価) 運営法人としての特性も活かし、市担当者だけでなく保健センター、民生委員などと一体となるような関わりが持たれている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は制度の理解を深めるための研修を受け、職員全員で学習の機会を設けている。必要な人には、活用できる支援体制が整っている。又、家族を含め本人との契約のうえで、福祉サービスの利用援助（代行、代理、情報提供）や日常的な金銭管理、などを継続的に支援している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の機会を設け参加している。又、全員で学習の機会を持ち徹底を図っている。言葉の使い方、声の大きさにも注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時十分な説明をして、重度化や看取りについての事業所の考え方や、取り組み方の話し合いを行っている。そのときにできること、できないことの説明、理解を得ている。入居から退去にいたるまで、家族様の不安を取り除くよう話し合い、理解が得られるように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様、後家族とのコミュニケーションの機会を多く持ちなんでもいえる環境を作っている。利用者様の状態の変化には特に、気を配っている。運営推進会議ではご家族様の意見を出せる場を設けて、それらの意見が反映できるよう努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 事業所運営上、積極的な家族への報告は必要であり、信頼関係を築き、又協力を得る上でも、御家族との連携は無くてはならないものと考えている。御家族のご意見や、要望は日ごろから大切にしている。 <hr/> (外部評価) 管理者は、家族とより信頼関係を結ぶために、定期的な報告は勿論のこと、家族の都合に合わせて個々の家族単位で話し合う機会をつくっている。直接話し合いを持つことで、報告が一方通行にならないように心がけている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との連携はとても大切にしている。運営推進会議に家族様も加わり意見が表せる機会を設けている。家族様が来棟時の際、話し合いの機会をまめに持ち、少しでも話し合い、反映できるようにしている。 <hr/> (外部評価) 管理者や職員には笑顔で傾聴する姿勢があり、家族に対しても同様の対応をしていることがうかがえ、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいることがわかる。また、運営者等もホームに訪れ、家族からの意見に耳を傾けている。出された意見は会議で話し合い、家族への報告も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングには意見や提案事項、要望等は必ず全員が出し合い、話し合いで、反映させるようにしている。日ごろからコミュニケーションを一人ひとりにとれるように心がけている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 日頃から職員同士の勤務の融通性はできているため、必要に応じ、応援体制はできている。おおむね余裕のあるシフトは組んでいる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動はほとんどなく、やむを得ずそうなるときでも、同じ事業所内の異動のため、日頃からなじみある職員同士であり、ダメージも少ない。この春退職者があったが、その後のかかわりも続き、たびたび顔を出してもらっている。 職員は当然利用者さまへの配慮はしている。		
			(外部評価) 離職や異動はほとんどなく、ユニット間の異動も多くないため、利用者や職員は第二の家族としての信頼関係が構築できている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が段階に応じた研修が出来るように計画を立て受講できるようにしている。それらの報告は、ミーティング時報告してもらい、全員で勉強会をしている。他事業所での研修会、勉強会の機会をを作るように勧めている。		
			(外部評価) 管理者は研修の有用性を理解しており、職員にはグループホーム連絡協議会等の研修会への参加を促している。また、法人でも研修の機会があり、職員のレベルアップを計画している。しかし、職員間には研修を受ける回数に多寡があり、スキルに応じての研修を受けているとまでは言えない。	※	常勤と非常勤の勤務条件、シフトの状況、年齢等の諸条件で研修の受講状況に差が出ていると思われるが、長期間勤務している職員が多いので、研修機会の均等化を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 普段から同業者との交流はまめに行っている。また相互訪問の計画をして、質の向上を目指している。		
			(外部評価) ホームが島しょ部にあるため同業者が少なく、同法人のホームやデイサービスセンターとの交流が多くなっている。地域資源とのネットワークは堅固に結ばれているが、同業種との関わりは少ない傾向にある。	※	先月から他ホームとの相互研修が開始されているので、グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターなどの協力を促し、研修会を充実させていく取り組みを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 日ごろから職員とのコミュニケーションを心がけ、職員同士の親睦の機会を作り、気分転換できるよう努めている。また、休憩室を設け、休み時間はゆっくり休める場所を設けている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 日ごろから職員個々の意見を聞いたり、気づき取り組みなどに対して賞賛、役割分担などで向上心がもてるように心がけている。また、資格取得に向けた支援をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用するまでに本人と面談を行い、話し合いの中で信頼関係を築き、不安を取り除くようにしている。さらに本人の思いを聞きながら理解に努める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と面談をして家族の求めていることや、思いを十分に聞き理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いや、その時の状況把握に努め、必要としていることの見極め、出来る限りの対応に努めるが、必要に応じて他のサービスにつなげるように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族との話し合いで面談を行い、見学や、遊びに来てもらったりしながら、徐々になじめるようにしている。また本人の納得の上でサービスにつなげるようにしているが、しばらくは家族に協力してもらいながら、不安を取り除き徐々に、慣れていただくようにしている。  (外部評価) 新規の利用者には自宅等の訪問、ホームの見学を必須としており、職員に馴染んでもらうことに力を入れている。家族には、当初は来訪の機会を多くするなど協力を依頼し、利用者がゆるやかに馴染めるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者様との会話を大切にしている。お互いわからないことは教えてもらいながら、出来ることは一緒に行い自然な生活風景が出せるようなかかわりを工夫している。  (外部評価) 「利用者にありがとうと言われたら、心が温まる」との職員の話には、人生の先輩からの労いに対するやりがい、喜びを感じることができる。職員と利用者には、利用者の身体面等をケアする代わりにメンタル面を支えてもらっている関係を見ることができる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の状態変化等必要に応じ連絡し、情報の共有に努めている。また定期的に生活の様子をお知らせし、家族様の安心感が得られるよう、職員は家族様とのよりよい協力関係が保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人様の状態の連絡、話し合う時間をこまやかに持ち、利用者様の状態把握をしていただき、利用者様の思いを伝えることも必要に応じて行っている。互いがよりよい関係が保てるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の方や知人の訪問交流がいつでもできるように働きかけている。四季を通じて、近くの公園、花見、祭り、行事など地域の中に積極的に出かけかかわりの継続に努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じ役割があり互いに出来ること、出来ないことを協力しあえる関係性を職員はその時々パイプ役となり、円滑になるように働きかけをしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居家族の方が遊びに来られたり、相談に来られたり、それまでと変わりなく関係の継続ができています。行事等への呼びかけ参加等の継続がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様の声や話し合いは大切にしている。表情、態度言葉から一人ひとりの気持ちや思いの把握に努めている。困難者には家族を交え情報を得ることもある。  (外部評価) 利用者の入れ替わりが少なく、身体機能等の変化も少ない。また、職員も離職者が少ないために、利用者の思いや意向の把握には問題を感じることはない。しかし、利用者の思いや意向の根拠となる生活歴の記録は残していない。	※	生活歴の記録を整理し、日々の生活の中で把握した事柄も書き加えることで、利用者の新たな側面を発見したり、共有していなかった点なども知ることができ、貴重な資料となると思われるので、取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様、本人様からの聞き取りによりこれまでの生活歴、全体像の把握をしている。本人のプライバシーは家族様に理解を得て、十分配慮し、気をつけている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを大切に、その人の持っている能力、その日の状態の観察により、その人の全体像を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) まず、本人様や、御家族との話し合う時間をまめに持ち、意見や要望をお聞きして、その人らしく暮らせるようにするため、本人の意思を尊重し、家族様の思いや意見が反映される介護計画を作成できる様に努めている。  (外部評価) 介護計画は、利用者の担当職員が計画作成担当者と共に立案し、ケア会議で検討している。会議の前には管理者や職員が家族やホーム運営協力者（地域住民）等から意見を求めており、自然な形でチームが構成されている。計画は利用者ができることは行ってもらおうということを基本にしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間中であっても、その方の変化があれば、必要に応じて本人や家族様の意向を伺い利用者様の状態、状況に合わせ、アセスメント、見直し、作成している。  (外部評価) 利用者の状態は、担当職員と管理者で事あるごとに話し合い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。ケア会議で計画時期の討議もしているが、検討の際のデータになる介護日誌が、利用者の状態を把握できるだけの記載方法になっているとまでは言えず、見直しの客観的なデータがやや少ない傾向にある。	※	介護日誌は利用者の状況を把握できる客観的なデータであり、これを検討することでより良い見守りが可能と考えられるため、記載内容について検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践の中からの記録を元に、情報の共有をしてアセスメント、介護計画の見直し評価の実施をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族さんや本人の要望に応じて、外出や外泊が出来るように支援している。地域との交流、Vr活動、実習生の受け入れなど柔軟な支援をしている。  (外部評価) 運営法人としての特性を活用し、デイサービス機能を始め、地域福祉の拠点としての機能を活用しながら、利用者や家族を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民生委員さんの訪問や地域Vrさん受け入れ、四季行事に檀家の寺参り、ほぼ毎日の保健センター、福祉センター利用など地域とのつながりを持ちながら、充実した生活支援を行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて、保健センターや福祉センターの利用、またデイサービスの習字教室への参加、保健相談、精神保健相談等の利用で、充実した生活支援ができるように支援を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき情報の交換、利用者さんの多方面からの協力関係が得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) それぞれの決めたかかりつけ医の受診ができ、適切な医療が受けられている。  (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の要望が優先されており、各医療機関との連絡調整は管理者やホーム長が担当している。利用者の状態に応じて専門医も利用できるよう、運営者も情報収集に協力しており、ホーム全体で適切な医療支援体制の構築に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ家族と相談により認知症専門医と相談、受診、治療が受けられる様に支援している。又、市の精神保健相談も利用の必要あれば利用できるように支援を行っている。 つき1度の訪問診療を利用している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 嘱託医の看護師、職場内の看護師の協力がいつでも得られ、日常の相談、協力の連携は取れているため、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者さんの状態の確認を、家族や医師からこまめに行い回復状況、退院見込み、予定の確認などでできるだけ早期退院できるように努めている。普段から協力関係を保っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 契約時本人さんや家族さんに意向は伺っている。状態に応じ家族さんの意向を踏まえながら医師、本人、家族、職員との話し合いでできるだけ早く、方針の共有をして意向に沿った支援につなげている。  (外部評価) 「職員は医療的行為を行わない」「利用者は口から栄養確保が可能である」「かかりつけ医の判断を基本とする」などホームで支援できる範囲を明確にしている。個々の家族との話し合いは、利用者の状況に応じて行うような体制ができている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族さんの協力なしでは困難であるため家族さんの協力体制も含め、本人さん、家族さんの意向を伺いながら、医師、職員も含め、連携をとり、安心して納得した生活が送れるようにしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人さんのそれまでの生活や、支援状況を伝達し、それまでの生活の継続性が続けられるように、情報の交換を行い本人さんのダメージを防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティング時職員の意識統一をはかるとともに、日々のかかわりの中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないように徹底を図っている。  (外部評価) 職員の利用者への声かけは、耳元で話しかける、スキンシップを取りながら話すなど、利用者それぞれが心地よい状態で話ができるような配慮が見られる。利用者の呼称もそれぞれの好みに合わせており、職員間で統一している。会話には利用者に対して目上の人という敬意を払っている様子が感じられる。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんに合わせた声かけや働きかけを行い、本人さんの思いを確認し、自分で決めたり、選んだりできる場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを大切に声かけし、その日の体調に配慮しながら、できるだけ本人さんの思いを尊重し、その人にあった生活の支援をしている。職員は会話を楽しむ時間も大切にしている。  (外部評価) 利用者のペースを優先して支援にあたっているが、規則正しい生活をする中で健康を守るという面から、本人の希望通りにならないこともあり、この場合は職員が丁寧に説明している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の着替えのとき自分でできにくい方の場合を選んでもらったり、おしゃれな気持ちを忘れないような声かけ誘導は行っている。理美容は希望があれば行きつけの場所でもらえるように支援を行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や下ごしらえ、盛り付けなど能力に応じてできることを職員と一緒に楽しみながら行い、食事中は、楽しく話し合いながらゆっくり時間をかけ楽しい時間を作っている。片付けはそれぞれのペースもありできることをできる方が積極的に行い、手分けして行っている。  (外部評価) 家族や近隣住民から採れたての野菜や魚の差し入れが多く、季節の食材を十分に楽しめる食事を提供している。平均年齢89歳と高齢の利用者が多いため、準備や後片付け等は難しいが、その間も職員と利用者の楽しそうな話し声が飛び交っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品の把握は一人ひとり大体できている。晩酌をほしがる方は量の調節を職員がするが、そのときは、酒のグラスは自分で用意をされている。好きなお菓子やアイスクリームを買いに行き楽しみにされることもある。おやつは手作りが多いが、一緒に作って楽しんでいただくように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) チェック表の記入でそれぞれの排泄パターンを把握し早めの声かけ誘導により、トイレでの気持ちよい排泄につなげていけるように支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴を楽しみにしている方が多いが、中にはどうしても嫌がる方もいて、時間を問わずタイミングを見て入浴してもらうこともある。楽しみにされている方たちは、気の合う人同士でゆっくり入浴を楽しめるように支援している。  (外部評価) 入浴は隔日となっているが、夏場やその他状況に応じて対応し、シャワー浴や足湯の利用も行っている。入浴の順番は利用者の希望にある程度添うようにしているが、集団生活であることから難しい面もあり、利用者との話し合いで解決を図るようにしている。入浴中は利用者職員が信頼を深める時間であるとの認識があり、丁寧な支援を行っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムがあり、居室でいつでも休めるよう温度の確認調節をしているが、日中の休息はなるべく時間を決めて夜の睡眠の妨げにならない程度に一人ひとりを確認把握しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとり生活歴や能力を生かした役割があり縫い物の得意な方が多く、居室の暖簾づくりや、座布団カバー、腕抜きを作ったりと、それらを生活に役立て、皆で賞賛しあったり、行事に参加したり、誕生日のお祝いをしたりと生活に変化を取り入れ、一人ひとりの意見を取り入れながらの生活支援をしている。  (外部評価) 利用者と職員と一緒に過ごしている時間が長く、利用者それぞれの好みなどを十分に把握しており、それを踏まえた支援が生活の中に組み込まれている。機能低下を遅らせるための体操が生活の中に組み込まれ、玄関口のソファに座っていた利用者が外に目をやりながらも手と足は職員の声に合わせて動かしているなど、利用者には楽しみな時間となっていると感じられた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で所持しているが管理困難なため小額である。家族さんからそれぞれ1万円程度を、日常生活費用として事務所で預かっている。そのなかから希望に応じ、一緒に買い物支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 朝の散歩は体調のチェックをしてほぼ毎日のように出かけるようにしている。声かけ誘導によるが、帰棟したときの表情は生き生きしたよい表情である。出かけ先は保健センターや福祉センター、近くの店に買い物などである。できるだけ今後も続けて支援していきたいと思っている。  (外部評価) 広い敷地や車の往来が少ない道路、神社や港がすぐそばにある等、ホームの立地条件の良さも手伝い、外出の頻度は高い。管理者や職員は、日常生活における外出の重要性は理解しており、「今日は天気がいいから」などと積極的に利用者に声をかけて外出を促している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 折に触れ行ってみたいところを話し合ったり、時節に応じ行きたいところなどへ出かける支援をしている。檀家のお寺参りなどは喜ばれている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 離れた家族や、知人、親戚などからの贈り物が届いた際には、必ず本人から電話でお礼を言ってもらっている。又たまには礼状や、便りを出すこと、毎年賀状を出すなどの支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 入って来やすく、居心地良く、ゆっくり会話ができるように居室や居間などで居心地良くすごしてもらおう。職員も混じって盛り上げたりして、楽しい雰囲気作りもし、居心地良く過ごしてもらえるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ミーティング時、振り返り話し合いの時間を持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。出て行きたがる利用者には、見守りや声かけ対応で職員間の連携ができていますが、近隣の事業所の協力が得られるようにしている。  (外部評価) 玄関入口は夜間の防犯目的以外には鍵はかけておらず、職員の見守りが基本のケアを実践している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ノックをして居室に入ったり、夜間はそと居室で状態の確認をしたり、事前に夜間に様子の確認に来ることを伝えておく。日中は、トイレ、入浴時の見守りをさりげなくして、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) トイレの洗剤などは手の届かないところに保管、ほか生活上やむをえないものは、使ったら片付けたり、区別がつきにくいものは、職員が気をつけて扱っているなど危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットで事故を防ぐところの注意点を話し合っている。一人ひとりの状態の把握をして事故防止に努めている。嚥下障害の方がいるため食事時の誤飲、窒息などには十分注意して事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 職員全員で救急法、AEDの使い方の講習を受け知識は得ている。おおむね年1回から2回は講習を受けて、緊急時への初期対応の備えができています。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し避難訓練を定期的に行っている。地域の消防団にも協力体制はできている。  (外部評価) 平屋で利用者の居室やリビングの窓は掃き出しとなっており、災害時の避難はし易い。避難訓練も単独で行ったり、近接のホームと合同で行ったりと余念がない。消防関係者や地域住民との話し合いにも力を入れており、スムーズな連携が取れている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの安全を気遣いながら自由な活動や、外出を支援している。リスクは高くなるものの生き生きとした表情が見られ、抑圧感のない暮らしを大切にしている。ご家族には、安全の確保に気をつけていること等を話し合い、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) ゆいの家の現在の行動指針であり、状態の変化への早めの気付への対応は日ごろから十分気をつけている。変化の情報の共有をして、早期対応をはかるように努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のつづりをファイルにして、確認出来やすく、薬の変更あれば、連絡ノートで申し送り、職員間での共通理解ができるようにしている。薬変更時の状態変化の確認があれば、細かく記録し医療機関への連絡が取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で確認して普段のリズムを把握している。便秘の様子あれば体を動かせる。食べ物の工夫をして自然な排便が出来るように努めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 三度の食事後の歯磨きの声かけをし、自分では十分出来ない方には介助で、義歯の方は寝る前は洗浄して清潔に出来るように習慣付けている。出来ることへの配慮をしながら、さりげなく介助、支援を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表の記入で摂取量の管理を行っているが、季節により、食欲の低下がある利用者さんなどには、食べやすいように工夫したり、メニューの変更、おやつ時間にカロリーのあるものを加えたり、工夫している。夏場、食欲がなくなることもあり、特にそういう利用者さんには配慮している。  (外部評価) 大まかなカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食にしたり、量の調整等を行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入し、見守りを行っている。利用者の状態によっては、体調を医師に相談し、高濃度栄養剤等による支援も行っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防マニュアルがありミーティング時に話し合いの時間を持ち、いつでも確認できるようにファイルにしている。感染予防のために消毒はいつも実行している。早期発見、早期対応に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は購入時日付を記入して清潔に保管して新鮮なうちに使用している。まな板は、ハイター消毒をして、布巾は使いまわしはしない。又冷蔵庫、冷凍庫の食材の使い残しのチェックは頻繁に行って、安全な管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに鉢植えを置き、ベンチで外気浴や気分転換がいつでも出来る様にしている。又、玄関はいつでも開放して明るい雰囲気づくりをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下、フロアークつろげる空間を設け、自由に会話や読書などしてくつろがれている。夏場は、遮光ネットや天井にすだれで遮光したり工夫はしている。ソファで横になりくつろいでいることもある。  (外部評価) リビングやダイニングはゆったりとしたスペースで、親しみやすい空間を演出している。広い廊下にもベンチやソファが配されており、利用者のくつろぐ場になっている。天窗も多く配され、自然光をうまく取り入れることで利用者の快適性の向上を図っている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースは自由なので、一人になりたいときはいつでも、思い思いのところに移動できる。居室に行くよりフロアのほうが安心できるのか昼寝をされたり、休んだり自由な空間が楽しめるよう工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自分の家として安心できるように、馴染みのある家具や布団、持ち物を使ってもらうように家族さんに伝えている。使い慣れた持ち物で、安心できている。季節により、温度調節をして、本人さんの心地よい温度に調節して過ごしていただくように工夫している  (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は換気に気をつけて匂いがこもらないようにしている。温度調節は利用者さんに合わせてこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室ないのベッドの向き、家具の位置などは利用者さんの身体状況に応じ、使い勝手のいいように配置して、安全に、自立した生活が出来やすいように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室ドアに大きく名札をつけたりトイレの表示を大きくしたりしている。自分の出来ることを大切に着替えも枚数は少なく、引き出しの整理も自分でしやすいようにと、職員用、本人さん用と区別する工夫もしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭花壇の花植えなどは皆で出来るように、また、サツマイモを植えたり、花の水遣りなど建物周りの活用を楽しんでいる。中庭芝生のところでお茶をしたり気分転換に活用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない (自己評価)	自分の思いが会話の中で伝えられる方に対しては生活の楽しみや充実感の持てるような支援をしている。伝えられない方に対しては、表情や反応の中から、興味のあることをつかんだり、家族様から伝えられたりなどで本人の思いを理解し、支援につなげている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない (自己評価)	お茶の時間、又夕食後の時間などゆったりと、皆で手づくりのおやつを食しながら、利用者さんと職員が同じ話題で楽しく過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	思い思いのペースで自由に過ごされている。廊下やフロアにくつろげる空間が何箇所もあり、利用者さんどうし談話する方たち、居室でくつろいでおられたりと自由に過ごされている。職員は所在の確認、見守りは常に行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	自分たちの能力に応じ、得意分野をさりげなく準備、支援することで生き生きとした表情が見られる。一人ひとりの出来ることの把握をして、さりげなく支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	声かけにより出かけるが、自分の行きたいところへ出かけ、職員は分かれて付き添うようにしている。外出願望の強い方の対応では、他事行所への協力も呼びかけ、利用者様の安全の確保に努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	毎日のバイタルチェックでその日の状態の把握をし、早めの対応が出来るようにしている。又、医療との連携も出来ているので、安心して過ごすことができる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	利用者さんの状況に合わせ要望に応じられるように柔軟な支援が行われ安心して暮らしている。職員や他者と話し合うことで、解決につなげることもある。そのため話し合いを大切にしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない (自己評価)	家族さんのその時々要望に応じ相談相手になったり、信頼関係はできている。そのとき利用者さんには不安感を感じさせないように配慮している。気軽に話し相手になれるように日ごろから関係づくりには配慮している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない (自己評価)	近所の方が毎日のように野菜を届けて下さっている。家族をはじめ、知人や、親戚の方の訪問がよくあり、家族の代わりに毎日の様に顔を出して下さる方もいる。皆でお茶を囲みゆつくりはなしをしたりして、地域との絆を保てるように努めている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議の内容から、認知症の理解の講演会が好評で2回目を行い住民の理解が得られている。又、地域に向けて夏祭りを毎年重ねる毎にグループホームの理解者、応援者が増えていると実感している。今後も、運営推進会議を意義のある会になるように努めていきたいと思っています。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全員の意見が言える機会を持ち、意見が反映できるようにしている。利用者様を中心とした行動指針を共有しながら、目標を持ち活動している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員を交え会話の機会を良く持っているため、要望などあるときは、話し合ったり、納得のいくように付き合い、解決につなげたり、一人ひとりの思いを大切に、出来るだけ利用者様の声に耳を傾けていくように努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	運営推進会議では家族さんも入っていただき意見をいただいている。いつも感謝されている。協力関係も良く、話し合いの時間をまめに持っている。離れた家族さんには連絡や、お便りで報告して、安心感を持っていただいている。家族さんの御意見やコミュニケーションを大切にしている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者さんとの協働やコミュニケーションが活かされるように支援しています。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

評価完了日

平成 20 年 月 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 常に利用者さんの立場に立ち、地域の人との触れ合いを大切にしながら、その人らしく暮らし続ける為に何をすればよいのか、事業所の目標と、職員で検討した指針を掲げ支援している。  (外部評価) 運営法人が、地域で活動している中で認知症の拠点の必要性を痛感して開設したホームだけに、理念は職員だけでなく地域住民と共につくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りやミーティングで関わりについて話し合い、理念の振り返りや実践においては状況によりそのつど職員全員で見直しを行なっている。  (外部評価) 管理者は介護の質の向上にはボトムアップが不可欠と考え、職員との話し合いは、会議上だけでなく業務のちょっとした間でも持つように心がけており、理念の共有に力を入れている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域のイベントや催し物には積極的に参加している。2ヶ月毎のホーム便りを発行したり、電話で近況の報告もしている。家族さんにも推進会議に参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩に出かけたり、商店を利用したり気軽に話しが出来る関係を作っている。近所からの野菜の差し入れがあったり、気軽に出入りできる開かれたホーム作りに勤めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) お祭りや行事に参加し交流に努めている。事業所としても毎年夏祭りを開催し地域の商店にも参加して貰っている。  (外部評価) 開所後から近隣とのつきあいには力を入れている。当初はホームが地域に出ていく関わりが基本であったが、近年ではホームの行事に参加してもらったり、できた野菜を届けてくれるなど、地域がホームに入ってくるようになっている。近所の方が話し相手を求めてホームに遊びに来るなど、地域との良好な関係が構築できている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 高校生や中学生の職場体験学習の受け入れや地域ボランティアの受け入れ等で認知症ケアの啓発に積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員外部評価の意義を理解している。又、外部評価を前向きにとらえ、職員全員でケアの振り返りや見直しを計画的、継続的に取り組み実践に繋げるよう努力している。  (外部評価) 自己評価は職員各自で読み込み、会議で話し合っている。評価の取り組みに数回携わっている職員が多く、毎年評価項目を読むたびに新しい発見があるとのコメントには、真摯に取り組んでいる状況がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では家族さん、利用者さんにも参加して頂いており、毎回議題を決めて積極的な意見を出してもらい、ケアの向上に取り組んでいます。又、現況も報告しています。  (外部評価) 「最初は議題に困って」と笑いながら話す管理者には、現在は地域にホームを知ってもらう場として有用に活用しているという自信がうかがえる。家族の理解を得ながら、個々の利用者に関わる議題にも触れており、サービスの向上に繋がるような取り組みがなされている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から運営上の相談や確認も行なっています、ホーム便りも届けています。  (外部評価) 運営法人としての特性も活かし、市担当者だけでなく保健センター、民生委員などと一体となるような関わりが持たれている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) パート職員もスタッフの一員として研修にも全員参加しています。権利擁護の研修にも参加しミーティング等で報告し皆で学習している。本部とも連携して活用できる体制が整っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は高齢者虐待防止の学習や研修に参加し、ミーティング等で話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に事前訪問を行い、事業所の方針やサービスの取組み状況などを重要事項説明書で説明している。それについて説明や意見を出して頂き、十分な話し合いによって理解、納得して頂いた上で入居契約をしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんや家族さんにも 運営推進会議に参加して頂き、意見が出る機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 二ヶ月毎にホーム便りを発行し行事や職員の移動等もお知らせしている。金銭管理や体調なども面会時や電話等で個別に対応している。  (外部評価) 管理者は、家族とより信頼関係を結ぶために、定期的な報告は勿論のこと、家族の都合に合わせて個々の家族単位で話し合う機会をつくっている。直接話し合いを持つことで、報告が一方通行にならないように心がけている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族さんが来られた時に話し合いを持ち、気軽に意見が出せるような関係作りに努めている。推進会議にも参加して頂き、意見や要望があればミーティング等で話し合い運営に反映させている。  (外部評価) 管理者や職員には笑顔で傾聴する姿勢があり、家族に対しても同様の対応をしていることがうかがえ、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいることがわかる。また、運営者等もホームに訪れ、家族からの意見に耳を傾けている。出された意見は会議で話し合い、家族への報告も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回のミーティングで職員の意見を出して協議しながら運営に反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要に応じて勤務が出来る様に日頃から話し合いがされており、勤務の調整は柔軟に行なわれている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 施設内での行き来があり、他の職員とも顔なじみであり、また介護職として同じケアが出来るので利用者さんには支障のない配慮が出来ている。  (外部評価) 離職や異動はほとんどなく、ユニット間の異動も多くないため、利用者や職員は第二の家族としての信頼関係が構築できている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員に内部研修や外部研修に参加できるようにしている。研修内容もミーティングで報告し、全員で共有している。  (外部評価) 管理者は研修の有用性を理解しており、職員にはグループホーム連絡協議会等の研修会への参加を促している。また、法人でも研修の機会があり、職員のレベルアップを計画している。しかし、職員間には研修を受ける回数に多寡があり、スキルに応じての研修を受けているとまでは言えない。	※	常勤と非常勤の勤務条件、シフトの状況、年齢等の諸条件で研修の受講状況に差が出ていると思われるが、長期間勤務している職員が多いので、研修機会の均等化を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 隣接のディサービス・グループホームとの交流しかなかったが、9月から連絡協議会の相互訪問を計画し、他業者とのネットワークづくりにも取り組む予定です。		
			(外部評価) ホームが島しょ部にあるため同業者が少なく、同法人のホームやデイサービスセンターとの交流が多くなっている。地域資源とのネットワークは堅固に結ばれているが、同業種との関わりは少ない傾向にある。	※	先月から他ホームとの相互研修が開始されているので、グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターなどの協力を促し、研修会を充実させていく取り組みを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員は日頃から、互いのユニットや隣接の同法人のグループホームの職員と話したり、交流したり親睦会もしたりストレス解消に繋げている。又勤務体制にも気を付けている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 専門職として介護福祉士やケアマネの資格取得に向けた支援や疲労を溜めないよう勤務状況も整えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接で生活状態を把握するよう勤め、本人の思いや、不安を受け止め、信頼関係を作る事に心がけている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初めて相談に訪れた時に、家族さんが何に困っているのか不安なのか理解し、どのような対応をして行くか話あっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人さん、家族さんの思いを聞き、状況に応じたサービスの利用や支援を行なっている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 島内であれば雰囲気に慣れるための準備段階も可能ですが、出来ないケースも出てきているので、今後は事前に遊びに来てもらったり、家族さんや関わりのある方の訪問などで安心感を持ってもらいスムーズな利用ができるようにしたい。  (外部評価) 新規の利用者には自宅等の訪問、ホームの見学を必須としており、職員に馴染んでもらうことに力を入れている。家族には、当初は来訪の機会を多くするなどの協力を依頼し、利用者がゆるやかに馴染めるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事を一緒に作ったり、野菜を作ったり、草を取ったりその人の経験を活かし、人性の先輩であると言う意識を持って共に生活し、支え合う関係を作っている。  (外部評価) 「利用者にありがとうと言われたら、心が温まる」との職員の話には、人生の先輩からの労いに対するやりがい、喜びを感じることができる。職員と利用者には、利用者の身体面等をケアする代わりにメンタル面を支えてもらっている関係を見ることができる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの思いを受け止め 職員は本人の立場に立ち支える姿勢で自然な人間関係を築き家族さんと共に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の日頃の状態をこまめに報告・相談すると共に推進会議や行事などに誘ったり、本人と家族の潤滑油になるよう心がけている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域に暮らすなじみの知人友人がデイサービスに訪れた際は出向いたりしながら関係が途切れないよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個別に話しを聞いたり、気の合った者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士がうまく関わりあえるよう職員が調整役となって支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス利用が終了しても、地域住民として関わり合える関係を大事にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話の中から、表情や態度を観察しながら一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族さんを交え情報を得る事もある。  (外部評価) 利用者の入れ替わりが少なく、身体機能等の変化も少ない。また、職員も離職者が少ないために、利用者の思いや意向の把握には問題を感じることはない。しかし、利用者の思いや意向の根拠となる生活歴の記録は残していない。	※	生活歴の記録を整理し、日々の生活の中で把握した事柄も書き加えることで、利用者の新たな側面を発見したり、共有していなかった点なども知ることができ、貴重な資料となると思われるので、取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら知り得た情報やバックグラウンドでその人の全体像を知り、今後のサービスの提供に結びつけている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 1日チェック表を作成し、常に見守りしながら一人ひとりの生活リズムを把握し、その人の得意分野で力が発揮できるよう心掛け、その人らしく生活ができるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族さんが訪問された時や電話等で、思いや意見を聞き反映させている。気付きや意見、要望はモニタリング・カンファレンスを通して介護計画に反映させている。  (外部評価) 介護計画は、利用者の担当職員が計画作成担当者と共に立案し、ケア会議で検討している。会議の前には管理者や職員が家族やホーム運営協力者（地域住民）等から意見を求めており、自然な形でチームが構成されている。計画は利用者ができることは行ってもらおうということを基本にしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月に1度、カンファレンスを行い状況や状態の変化に応じて職員全員で見直しを行っている。家族さんの意見も計画に反映している。  (外部評価) 利用者の状態は、担当職員と管理者で事あるごとに話し合い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。ケア会議で計画時期の討議もしているが、検討の際のデータになる介護日誌が、利用者の状態を把握できるだけの記載方法になっているとまでは言えず、見直しの客観的なデータがやや少ない傾向にある。	※	介護日誌は利用者の状況を把握できる客観的なデータであり、これを検討することでより良い見守りが可能と考えられるため、記載内容について検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の日誌には水分・食事量・排泄等日々の身体状況や言葉やエピソードも記入しています。朝の申し送り時と遅出の職員は必ず目を通してしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者と家族が安心して暮らし続けるために、その時々々の要望に応じ、近隣のデイサービスセンター・保健センターの利用また、外泊などの柔軟な支援をしている。  (外部評価) 運営法人としての特性を活用し、デイサービス機能を始め、地域福祉の拠点としての機能を活用しながら、利用者や家族を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民生委員さんやボランティアさんの定期的な訪問があり、その他各方面からの協力が得られ充実した生活が送れるよう支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の希望により デイサービスや保健センターに出向いてレクをしたりマッサージ機にかかったり、卓球をしたりと生活に楽しみが持てるように努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 支所の保健師さんも運営推進委員になっていただき、包括支援センターと協働を図っている。又 利用者のケアマネジメントについても多方面から相談協力が得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時からの主治医には継続して家族さんが連れて行かれております。嘱託医の受診は月2回行っています。緊急時の対応にも隣接の福祉センターの看護師が相談にのってくれます。  (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の要望が優先されており、各医療機関との連絡調整は管理者やホーム長が担当している。利用者の状態に応じて専門医も利用できるよう、運営者も情報収集に協力しており、ホーム全体で適切な医療支援体制の構築に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の診察が必要となれば家族と相談の上 支所の保健師を通じて、専門医の診断治療受けられます。又 月1回の専門医の相談治療が受けられます。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、利用者の健康管理には常に気を配っている。医療が必要な場合は早急に受診出来る様に支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 嘱託医の病院への入院が多く、医師は認知症に理解があり、協力的で、家族さんも交えて早期退院に向けて支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に事業所の方針を十分に説明しており、状況の変化に応じて医療機関、家族さんとも相談し、連携を図りながら支援している。  (外部評価) 「職員は医療的行為を行わない」「利用者は口から栄養確保が可能である」「かかりつけ医の判断を基本とする」などホームで支援できる範囲を明確にしている。個々の家族との話し合いは、利用者の状況に応じて行うような体制ができています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族や本人の意向を伺いながら、職員や医師が連携を取、事業所として出切る事を見極め、安心して暮らせるように取り組んでいる。又、今後の変化にも対応出来る様に嘱託医とも検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) やむを得ず他の事業所や別の場所に移る際は、十分な支援内容や注意事項などの情報を交換し、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけないよう言葉掛けにも配慮し、理解し易い言葉で話すように心がけている。知り得た個人情報は丁寧に扱う様徹底している。  (外部評価) 職員の利用者への声かけは、耳元で話しかける、スキンシップを取りながら話すなど、利用者それぞれが心地よい状態で話ができるような配慮が見られる。利用者の呼称もそれぞれの好みに合わせており、職員間で統一している。会話には利用者に対して目上の人という敬意を払っている様子が感じられる。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) その人に合わせた声かけをし、その人の気持ちを聞きながら何をしたいのか汲み取り、自己決定できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ゆったりとした時間の中で、利用者さんの希望やペースに合わせて散歩やレク、又は保健センター・福祉センターへ出向いたり希望に沿うよう支援している。  (外部評価) 利用者のペースを優先して支援にあたっているが、規則正しい生活をする事で健康を守るという面から、本人の希望通りにならないこともあり、この場合は職員が丁寧に説明している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ホーム内では職員が散髪や毛染めの支援をしている。家族さんや利用者さんの要望があれば美容院への送迎もしている。お祭りに出かける際には、希望によりお化粧の支援もしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんの能力に応じて食事の支度をし、楽しく話しをしながら食事をして片付けもしている。畑で作っている野菜も食材として使い楽しみも得ている。  (外部評価) 家族や近隣住民から採れたての野菜や魚の差し入れが多く、季節の食材を十分に楽しめる食事を提供している。平均年齢89歳と高齢の利用者が多いため、準備や後片付け等は難しいが、その間も職員と利用者の楽しそうな話し声が飛び交っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者さんと一緒に買い物に出かけた時、本人の好みのお菓子など買えるように支援している。又会話の中で季節の料理など食べたいと言えば料理し食事を楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を見ながら排泄パターンを把握し、少し早めにトイレの声かけ誘導を行い、失敗を無くすことで気持ち良く排泄するように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望の時間に入浴できてない利用者様もいるが、できるだけ満足する様に声かけしている。入浴時は羞恥心にも十分配慮し楽しく安全に入浴できるよう支援している。  (外部評価) 入浴は隔日となっているが、夏場やその他状況に応じて対応し、シャワー浴や足湯の利用も行っている。入浴の順番は利用者の希望にある程度添うようにしているが、集団生活であることから難しい面もあり、利用者との話し合いで解決を図るようにしている。入浴中は利用者との職員が信頼を深める時間であるとの認識があり、丁寧な支援を行っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) できるだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。入眠時に不穏のある人にはおにぎり等食べてもらい空腹をなくし眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 野菜作り等を一緒に行なう事で何をすればその人の役割や楽しみが得られるのか把握し、その人その人の状態にあった生活を支援している。  (外部評価) 利用者と職員は一緒に過ごしている時間が長く、利用者それぞれの好みなどを十分に把握しており、それを踏まえた支援が生活の中に組み込まれている。機能低下を遅らせるための体操が生活の中に組み込まれ、玄関口のソファに座っていた利用者が外に目をやりながらも手と足は職員の声に合わせて動かしているなど、利用者には楽しみな時間となっていると感じられた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は利用者さんがお金を持つ事の大切さを十分に理解している。管理能力に欠けている利用者さんをご家族の承諾を得て少額の金銭管理をしている。利用者さんが少額を所持し安心して買い物する事で満足感を得てもらい、本人が支払えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 気分転換やストレスの発散、その日の天気や季節を肌で感じてもらうなど、五感刺激の概念として散歩や商店への買い物、保健センターの利用等、運動も兼ねながら、出来るだけ戸外へ出かけるように心がけている。  (外部評価) 広い敷地や車の往来が少ない道路、神社や港がすぐそばにある等、ホームの立地条件の良さも手伝い、外出の頻度は高い。管理者や職員は、日常生活における外出の重要性は理解しており、「今日は天気がいいから」などと積極的に利用者さんに声をかけて外出を促している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 初詣やお花見、お祭等の外出の計画を立て、職員勤務を調節するなどして外出支援をしている。家族にも連絡を取り、相談しながら協力をお願いする事もある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や友人などに電話し易い雰囲気作りや職員がさりげなく取り次ぐなどしている。利用者さんの希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や馴染みの方の訪問があれば 気兼ねなく自然な形で居室や居間で穏かに楽しい時間を過ごして貰えるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修・ケアカンファレンス等で、利用者様が受ける身体的・精神的弊害について職員全員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、居室や玄関には鍵はかけず、何時でも出られるようにしている。外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒に付いて行く等、安全面に配慮している。  (外部評価) 玄関入口は夜間の防犯目的以外には鍵はかけておらず、職員の見守りが基本のケアを実践している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は2時間おきの巡回見廻りで安全の確認をとり、利用者さんのプライバシーに配慮しながら見守り支援をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁・ハサミ・洗剤等注意が必要な物品は保管場所を決めて管理している。使用する時はその人の状態に応じて職員が見守りながら一緒に使用している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有意識を図っている。万が一事故が発生した場合は速やかに対応し、事故報告書を作成すると共に、今後の予防対策について十分に検討している。又避難訓練は定期的に行なっており連絡網の確認も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署員や日赤講師による救急法、心肺蘇生法の研修を定期的に受講し、緊急時に対応できるよう職員全員が訓練している。特に今年はAEDの研修を行い隣接の福祉センターに設置している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し、避難訓練を定期的に行なっており避難経路の確認は取れている。普段から地域の方の協力が得られる様働きかけ、運営推進会議には地元の消防団の方も出席している。  (外部評価) 平屋で利用者の居室やリビングの窓は掃き出しとなっており、災害時の避難はし易い。避難訓練も単独で行ったり、近接のホームと合同で行ったりと余念がない。消防関係者や地域住民との話し合いにも力を入れており、スムーズな連携が取れている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 抑圧感のない生活にはリスクが伴いリスクに応じて職員全員で共通認識を持ち、状況に応じて家族さんとも話し合いを持ち穏かに安全に暮らせるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日決まった時間にバイタルチェックを行い、変化にも気を付けている。些細な変化も見落とさず早期発見に気を付け、速やかに対応できるよう情報の共有もしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が利用者の病状を把握しており、服薬の支援をしている。変化には記録をとり主治医の指示にしたがっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防に繊維質の食材を取り入れ、散歩や家事や体操等身体を動かす機会を作り、自然排便が出来る様に取り組んでいる。排泄チェック表も利用し排便リズムも把握している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きも行なっている。入れ歯の方には就寝時ポリデントを使用している。歯磨きが不十分な方には、歯周病予防のうがい薬を使用して個別に口腔の清潔保持をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分量はチェック表で確認している、なんらかの病気や状況で摂取出来なくても、タイミングや介助の工夫をしたり雰囲気を変えたり、又は好みの食事をお出しして食べられる様に援助している。栄養バランスも栄養士に協力して貰っている。  (外部評価) 大まかなカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食にしたり、量の調整等を行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入し、見守りをしている。利用者の状態によっては、体調を医師に相談し、高濃度栄養剤等による支援も行っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 事業所内で起こり得る感染症について感染症予防マニュアルを参考に学習している、外出時から帰った時の手洗い、うがいは徹底して行っている。インフルエンザの予防接種も全員行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾等の台所用品は漂白し清潔に心がけ、調理器具や食器など熱風消毒を行ない、台所の清潔管理に努めている。食材の残りの点検も頻繁に行い、常に新鮮な食材を使用するよう管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花を活け、明るい雰囲気を作っている、玄関前にはプランターに花を植え、水遣りや手入れの途中も声を掛けて頂き近所の方との会話もしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には行事の写真を貼り、洗面所には季節の花を飾っている。皆で作った作品も飾り、心地よく過ごせるように工夫している。  (外部評価) リビングやダイニングはゆったりとしたスペースで、親しみやすい空間を演出している。広い廊下にもベンチやソファが配されており、利用者のくつろぐ場になっている。天窗も多く配され、自然光をうまく取り入れることで利用者の快適性の向上を図っている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下に椅子を置き、一人で外を眺めたり、数人で話をしたり、利用者の関係に配慮した居場所も作っている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたベッドやタンスを持ち込みされた方、家族の写真を持ってこられてる方、TVを一人で見たい方、それぞれの好みで安心して落ち着ける居室になり、その人らしく過ごせるよう配慮している。  (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓の開閉、換気扇、扇風機を使い、空気よどみや気になる臭いが無いよう努めている。トイレでは汚物を新聞紙に巻き臭いに気を付けている。室温は温度計で把握し、外気温と大きな差が無いよう温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 室内はバリアフリーになっているが、ヒヤリハットで記入の場所には安全の為手すりや椅子を設置している。身体能力に応じて車椅子や歩行器を使い出来るだけ自立への配慮をしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室・トイレが分からない人には大きな字で表示したり矢印をしたり、混乱や行動の失敗がないようにしている。状況が変わればそのつど職員間で話し合い、不安材料を取り除き、その人らしく暮らせるように工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭の花壇には花や野菜が植えられ、花摘みや草取り水遣りなどの作業を楽しんでいます。外周は整備されていて車椅子でも段差なく散歩ができます、何箇所かベンチも置き日常的に楽しめるように工夫もしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	会話の中や日ごろの生活の中で思いや願いを感じ取り、その人らしい穏やかな生活が出来るようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	日々の散歩は利用者さんのペースに合わせてながら、またおやつ時にはみんなで食卓を囲み、ゆったりと穏やかに過ごせるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホールには和室やソファがあり、思い思いにくつろげる場所を設けている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日ごろの生活の中で得意な事を見つけ、職員と一緒にする事で楽しく生き生きとした表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日散歩に出かけたり、地域のお祭りや行事には出来るだけ参加するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝のバイタルチェックや1日チェック表で変化が見られたら、迅速に主治医に連絡が取れるようにふだんから家族さんとの連携もとれている。月に2度嘱託医の往診もある。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望には些細な事でも出来るだけ耳を傾け、職員で話し合っって状況に応じて対応し、安心して暮らせるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんの面会時や来られない時には電話で現況の報告をしたり、信頼関係ができるように務めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	近所の方が野菜を持ってこられたり、福祉センターに来られた知人と交流し楽しく過ごしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	夏祭りや地域の行事などでは会を通して協力を得たり、ボランティアの訪問なども増え確実に理解者や応援者が増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全員が意見を言える明るい職場であり、思いやる気持ちを持つように心がけている。勤務形態にも気を配り、生き活きと働ける環境が整っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家よりここの方がいいから帰りたくない。と言われる利用者さんもいたり、帰宅されてもすぐにゆいの家へ帰りたいたいと言われている利用者さんも居られます。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	お便りの発行や報告などで連絡は随時行っており、行事にも参加して貰っています。その都度感謝の言葉を頂き、おおむね満足されていると思います。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

ホームは保健センター・福祉センターと隣接しており、毎日出向いてリハビリや通所者さんと触れ合い、閉じこもらずに開放されたホームを目指しています。敷地は広く中庭もあり圧迫感がなく散歩も自由にされていて、同敷地内のホームにも遊びに行かれたりと日々活動的に暮らしています。自然な生活の中で交流し、地域の方とふれあいながらとけこんでいき、このホームが特別なものではなく、地域に根ざしたホームであるよう頑張っています。